

(宮山町)
箕面自由学園高等学校
アメリカンフットボール部



自己管理と時間を大切にする

「アメリカンフットボールはポジションが細分化されているので、身体が大きい、足が速い、肩が強いなど何かひとつ長所があれば、それを活かせるスポーツです」と話す小川道洋監督

は、大学生のときからアメリカンフットボールを始め、全日本代表にまで選ばれました。着任3年目の小川監督は、「はつらつとして元気がある」とチームを評します。「日本一にも輝いた伝統あるチーム。誇りを持ってその良さを伸ばしていきたい」とも。練習では、「最初から最後まで全力を出し切るためには、始まる前の準備が重要と説いて、時間管理と集中力を養うよう指導しています。移動や集合が迅速になり、学校生活にも良い影響が出ています。」

大阪では常に優勝を狙える実力の同校では、公式戦には必ずチアリーダー部が応援に駆けつけます。「日本一のチアリーダーに応援してもらえる高校チームは他にありません。本場アメリカのような雰囲気です。OBや保護者の応援が熱心なものも大きな支えになっています。」



チアリーディング競技の大会では、自分たちの演技が終わっても他のチームを最後まで応援し合います。

「応援する」ことから始まった競技ならではの一体感。

箕面自由学園高等学校と梅花高等学校は、常に全国1位2位を争う強豪チーム。

ひとつの市にトップ2のチームがあるところは他では見られません。

合言葉は「元気、勇気、笑顔」

とよなかチアリーディングヒストリー

(上野西)
梅花高等学校
チアリーディング部

(宮山町)
箕面自由学園高等学校
チアリーダー部



箕面自由学園高等学校チアリーダー部は、平成3年(1991年)、当時のアメリカンフットボール部の富田秀司監督が、アメフトの応援をしてくれるチアリーダーがほしい、と女子生徒に呼びかけて誕生。同校で音楽の講師をしていた現ヘッドコーチの野田一江さんに指導を依頼したものの、二人ともチアリーディングは未経験。ビデオを観たり、講習会に参加したりと、見よう見まねで様々な手を尽くして指導にあたりました。部員たちの吸収は早く、創部2年目には関西チアリーディング選手権大会に出場。しかし、その大会のリハーサルで選手が肩を骨折する事故が起こりました。「急きょメンバーがかかったにもかかわらず、演技を無事に終えた選手の姿に感動して泣きました」。本気でチアリーディングに向き合う覚悟を決めた野田さんは話します。「今は若手コーチたちが、必ず日本一にするという熱意で、きめ細かく指導にあたっている」とも。

梅花高等学校チアリーディング部の創部は平成17年。平成4年に創部した梅花女子大学が全国トップクラスとなり、幼稚園から大学までチアリーディングに取り組むことになりました。専任コーチの熨斗香里さんを中心に、大学卒業生がコーチを務めます。「チアをしていたことで、どんなことがあっても前向きになれる。『元気、勇気、笑顔』で、人生のつらいことも乗り越えていけると部員たちに伝えたい」と話す熨斗さん。

両校とも、初心者、経験者にかかわらず、一人ひとりの身体能力を見極めながら、段階を踏んで目標の技へと導きます。そして技の成功に何よりも大切なのが部員同士の信頼。どんなことでも言い合える関係づくりに心を砕きます。両校の結びつきは深く、梅花女子大学にクラブが立ち上がるきっかけが、関西にはチアリーディング部のある大学が少ないからという箕面自由学園チアリーダー部の富田監督の働きかけによるもの。高校時代は良きライバルで、卒業後はチームメイトとなる部員も多いのです。